

# ひろまちだより

Hiromachi Ryokuchi Park in City of Kamakura

## contents

特集	タイワンリス
連載	樹木区日誌
催事	冬のイベント etc
ほか	コロナ対応

## 真冬も元気です



①多様な声でにぎやかに鳴くガビチョウ。中国南部などに生息し、1970年代頃より、飼い鳥として輸入されるようになった。②早春から花を咲かせるオオムソフグリ。ヨーロッパ原産で、明治時代から日本で見られるようになった。③カエルの卵などがある冬の田んぼに残されたアライグマの足跡。タヌキと違い、指先がとがっている。④冬の田んぼ作業で掘り起こされたアメリカザリガニ。昭和初期にウシガエルの餌用に移入されたものが日本全土に広まった。



どんぐりを食べるタイワンリス

ひろまちだより 2021/22 冬号 (2022年1月発行)

発行 鎌倉広町パートナーズ

鎌倉広町緑地管理事務所  
 鎌倉市津 1133 TEL : 0467-32-5112  
<http://www.kamakurahiomachi.com/>





畑近くの休憩場に  
あらわれたタイワンリス

## 市街地や公園を足がかりに増える外来種

*invasive species increasing in urban areas and parks*

広町緑地や周辺の住宅地で樹上や電線を歩き回る小動物を見かけたら、その多くは特定外来種(\*)のタイワンリスです。

タイワンリスはアジア全域に広く生息するクリハラリスの台湾固有亜種で、鑑賞や飼育のために移入されたものが逃げ出し(放され)、神奈川県東部や伊豆半島を中心に急速に勢力を広げています。

本来は常緑広葉樹林に生息しますが、公園や緑地のある市街地、寺社などの環境にも対応し、樹上に細い木の枝で巣をつくります。

\*輸入、飼育、移動などが禁止されている。野生化した個体を持ち帰ることもできない。

### 在来のニホンリスとなにがちがう?

日本にはキタリスとエゾリス(北海道)、ニホンリス(本州、四国、九州)の3種の在来リスがいます。ニホンリスはタイワンリスと比べてひとまわり小さく、腹部にかけて赤茶系の体色(夏毛)をしています。神奈川県のニホンリスの分布は相模川より西の山地に限られるため、広町周辺で見られるリスは全てタイワンリスです。



多様な声で鳴くタイワンリス



小柄で華奢なニホンリス

## ウッディぴろしの樹木区日誌



Vol.11

ヤツデ

(ウコギ科)

広町緑地の暗い樹林の下でも何の問題もなく育つヤツデ。大きな手のような形をしているので、「客を招く」として店の前に植えたり、末広がりの縁起がいい名前です。せいぜい2、3mの高さまでしか成長しないので、ゆっくり観察するにはおすすめの樹木です。珍しく冬に開花する白い花が、独特の匂いと甘い蜜でハチやハエをおびき寄せ受粉します。そして暖かくなると黒く熟して鳥に運んでもらう戦略です。



大きな葉と白い花



暖かい日には小さな虫たちが集まります

## イベント情報

2月26日(土)に「そば打ち教室」を開催するほか、里山さんぽとして1月22日(土)に「冬の野鳥観察会」、3月26日(土)に「大桜鑑賞会」を行います。「そば打ち教室」は1月17日より予約開始(定員20名、参加費800円)、里山さんぽは予約不要です(参加費大人200円)。

詳細は鎌倉広町緑地ホームページ  
または園内掲示板のポスターをご覧ください。



冬にエガラやコガラなどと混群をつくるシジュウカラ

**管理事務所よりお知らせ** 引き続き新型コロナ感染防止のための園内でのマスクの着用、三密の回避、また犬連れの方にリードの着用をお願いしております。